

戸数と人口 (12月末)							
世帯数	5,714						
人口	<table> <tr> <td>男</td> <td>15,839</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>16,677</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>32,516</td> </tr> </table>	男	15,839	女	16,677	計	32,516
男	15,839						
女	16,677						
計	32,516						

武藤建設請負で

議長 吉田次郎・副議長 関英幸の両氏

昭和35年第1回臨時会

町議会の新陣容

町議会の新
昨年十二月二十四日の選挙で当選した新町議は、一月六日初議会（昭和三十五年第一回臨時会）をひらき、正副議長の選出、常任委員の選任など決定して、三十名による新議会がなごやかに発足した。

年頭のごあいさつ

町長 関野信平



昨年中は、格別の御厚情を賜り衷心よりお礼申上げます。願みれば昨年二月町長に就任以来十一ヶ月、その間、町民の皆様を始めとする町内各機関の御支援に加えて、関係当局の御指導を戴きまして、町の宿願であった役場新庁舎の建築もきまり、八郷高校の県移管の話し合いも順調に進

してゆく所存でございます。どうか本年も町民の皆様が御多幸でありますことを祈念いたしますと共に、旧に倍した御尽力と御鞭撻を賜り、一日も早く平和な、そして豊かな理想郷八郷町の建設が達成されますよう心からお願ひ申し上げます。年頭の御挨拶いたします。

ことしの二月一日を期して全国にわたり農林業に関した国勢調査とも言うべき「一九六〇年世界農林業センサス」が実施されます。

これは、わが国が「経済統計に関する国際条約」に加盟しており、国際連合の農業部門を担当する国際連合食糧農業機構が示す要領によって、十年に一回行う調査なのです。したがって、この農林業センサスでは国際的比較のできる統計をつくらねばなりません。最近の農業は目覚ましい発展をとげております。しかし、農業経済の面からみますと、農業生産力は次第に高まってきてはおりますが、農業以外の

産業と比較しますと、農家の所得の伸び方はきわめて少く農業だけでは生活がでないため、兼業を行わねばならぬ農家が次第に増加しています。また、農業経営の面をみましても、適地適作の奨励、畑

▲ 1960年世界農林

センサスは明々

作振興その他により、果樹酪農その他の商業的農業が著るしく発達しました。けれども、数年来のこれからの農産物の価格をみますと、まゆをはじめ牛乳、野菜など農家経済上重要な農産物の価格が不

1960年世界農林業センサス

安定となり、農家経済をおびやかしております。単なる増産政策だけでなく、生産の調整、消費の増大、流通の改善などについての強力な政策の実施を各方面から要望されております。農家が安心して農業を営むことの出来るようなガツチリした政策をたて、わが国の農政の転換をはからなければならぬ時期にきています。

この世界農林業センサスは、この農業の転換政策をたてる

上にきわめて重要な基礎的資料を提供することになります。この調査は各農家の世帯を統計調査員がお伺いして、世帯員と兼業、土地、家畜、農用機械、肥料、農産物等について詳細に聞き取り調査をします。その他保有山林面積や植林、施肥、林産物、労力等の調査も致します。一九六〇年世界農林業センサスは明るい農村を生む力であり、転換期にたつわが国の農林業の発展に、きわめて重要な調査であると共に、今後十年間にわたり農政上使われる総合的な大調査でありますので、全町の皆様に御理解と御協力をお願いいたします。



かけがえ前の遠江戸橋

岡地内の遠江戸橋は、現在腐朽が甚しいので、地元部落民の協力により、昨年十二月十二日かけがえ工事に着工したこの橋は、町で初めてP・S



次の通り

橋長	七・〇呎
全巾	五・二呎
工費	六十六万円

基礎コンクリート作業

議長	吉田 次郎
副議長	関 英幸
臨時出納検査立会議員	小河原慶四郎
	大塚 利善
	真家 只吉
◆総務委員会	
委員長	友部 来三(恋瀬)
委員	桜井 浩蔵(瓦会)
	須藤 善一(園部)
	滑川 好道(小桜)
	滝田 欣一(柿岡)

委員	武熊 繁正（林）	委員	土田庄右エ門（柿岡）
吉沢 佐内（苜穂）	委員長	市塚 長一（林）	委員
塚谷 明（小幡）	◆産業經濟委員會	本國桂一郎（苜穂）	委員
		小河原慶四郎（瓦会）	委員
		山田 米雄（園部）	委員
		柘植要五郎（恋瀬）	委員
		大塚 利善（小幡）	委員
			◆土木建設委員會

	委員	委員長	◆教育民生委員會	石田忠雄(五会)	"	"
		馬立林蔵(芦穂)		真家只吉(園部)	"	"
		岩瀬孝雄(園部)				
		綿引仁太郎(柿岡)				
		吉田次郎(〃)				
		中島盈家(小幡)				
		関英幸(小桜)				
		青木茂夫(恋瀬)				
◆監査委員						
武熊繁正(林)						

温かい心尽し。

寒さに向つてたき木に困つてゐる人々のためにと、このほど柿岡上宿の永山正造さんより、桐枝二百五十束が寄せられましたので、早速厚生課を経て地区内の方々に分けいたしました。

年の瀬にこの温かい心尽しに皆喜びに明るい顔でした。

の育成、児童遊園地の設置、青少年不良化防止の対策を進めている。

児童遊園地の施設については、柿岡下宿、下林中央、根小屋、月岡、園部地区等より申請があり、柿岡那須鉄工所の手によって、一ヶ所に五連

遠江戸橋かけ

町道の柿岡―小幡線大字柿

標準要保護	
学校名	支給金額
小幡穂	13,500円
小幡穂	17,600
小幡穂	7,200
小幡穂	12,900
小幡穂	4,360
小幡穂	8,000
小幡穂	6,000
小幡穂	5,062
計	

大郎・副議長 関英
— 昭和35年第

幸の両氏
1 回臨時会――

浅野 篤 (恋瀬)
川井 杯平 (柿岡)
原田 孟 (小桜)
込山 春男 (小幡)

一月二十日には、各地区一
チームの代表により、操法競
技会が行なわれ、瓦会第五分
団が最優秀で町代表になり、

協 社
ブランコを設置

校名	支給
野小	9.
穂二小	6.
増小	6.
部二小	5.
桜二小	7.

101

年	世帯数	総人口	男	女	出生	死亡	転入	転出
30年	5,660	33,225	16,210	17,015	617	282	735	1,087
31年	5,660	33,228	16,277	16,951	689	314	783	1,155
32年	5,675	33,001	16,130	16,871	599	340	734	1,229
33年	5,677	32,871	16,042	16,829	613	316	729	1,156
34年	5,714	32,516	15,839	16,677	538	331	614	1,176

町代表に瓦会第五分団

消防ポンプの操法競技会

委員 鈴木 栄三（吉恵）
 小型動力ポンプが全分団に配置されたことは、既報のとおりですが、その基本的操法を習練しようと、町消防団では一月八日に動力ポンプの操

保 險 者 被 保 險 者
異 動 は す ぐ 届 を

(一) 被保險者証の提出—國保の被保險者が医師、又は齒科の醫師、柔道整復師について、診療を受ける際は必ず被保險者証を提出する。

(二) 國保の被保險者が、転出入（嫁入り、婿入り、就職、その他）又は出生、死亡等によつて、世帯に異動を生じた場合は、その世帯主はすぐその場異動届をする。その際必ず被保險者証も一緒に提示して加除を受ける。（これを励行しないと後で医者にかゝるとき不都合を生じます。）

(三) 修学のため転出する学生へは、その世帯からきり離して単独の被保險者証を発行する。

費支給表		
学 校 名	支給金額	
岡 中	4,738円	
幡 中	6,415	
穂 中	6,200	
小 中	16,800	
恋 中	1,290	
互 中	13,000	
園 中	6,328	
林 中	6,800	
計	61,571円	

協
社
フランコを設置

町福祉協議会では、年度内の事業促進のため老人クラブの育成、児童遊園地の設置、青少年不良化防止の対策を進めている。

児童遊園地の施設については、柿岡下宿、下林中央、根小屋、月岡、園部地区等より申請があり、柿岡那須鉄工所の手によって、一ヶ所に五連

遠江戸橋かけ

町道の柿岡―小幡線大字柿

援 徒 生 童 兒 護 保 要 準			
学 校 名	支 給 金 額	学 校 名	支 給
柿岡小学校	13,500円	片野小	9,000
小幡小学校	17,600	芦穂二小	6,000
小芦穂小学校	7,200	大増小	6,000
小恋瀬小学校	12,900	園部二小	5,000
瓦会小学校	4,360	林小	6,000
園部小学校	8,000	小桜小	5,062
林小	6,000		
小桜小	5,062		
計			101,000

費支給表		
学 校 名	支給金額	
中 中	4,738円	
岡幡穂瀬会部	6,415	
柿小	6,200	
小 中	16,800	
恋 中	1,290	
互 中	13,000	
園 中	6,328	
林 小	6,800	
計	61,571円	

原因究明



カギも、みんな青年の自覚と力につながるだろう。

そこで、町教育委員会と連合青年会が共催で、第一回の「八郷町青年学級幹部研修会」と「青年研究集会」を十二月二十六・二十七日の二日間、板敷山大覚寺で、五十余名の青年研修生を集めてひらいた。

第一日終了。

が不振であるため、その原因を究明して、今後の学級運営をよりよいものとし、また青年の生活をよくするにはどうしたらよいかを、団活動の中で実際に起った問題、現実にあったことなど、自分達の日

第二日目(二十七日)は分科会が午前中で、青年の生活活動、組織の問題、社会活動の四つの分科会にわかれて、町の青年学級主事の先生方などを助言者に農村青年の悩みを発表しあい、問題解決



!!筑波おろしの吹く冬空のもと、氷がはりつめている小川のふちといわ
ず、しも柱の立っている田圃のあぜ道といわず、若草が芽を出し、やがて
花をつけ春がやってくる。その新芽にも似た新しい成人の息吹き、姿勢を
正して大空を仰ぎましょう。おとなたちはそれを待っているのです。あな
たも若き世代に期待しているのです。成人おめでとう!!

写真は、ことし成人式を迎えた五百二十名。＝成人の日・八郷公民館で＝



四年続きの豊作や岩戸景氣とさわがれた昭和三十四年が去り新しい年を迎えました。正月は、なんとも来る年の夢と希望に、だれもがなんとはなしに浮かれ、また、わけもなくおめでたくなるものです。

正月が来る度に思うことは、それは学校、官公庁、会社などが新正月を祝って、家庭ではどうして旧正月を祝うのだろうか。

ひと

旧暦は、むかしから農作業や農村の行事などと深いつながりがあった、農村生活と結びついていました。ところが最近、新暦でお正月を祝う

農家が多くなりました。そのわけは、保温折衷苗代や野菜の促成栽培などの普及や、機械化によって農作業にこゝ数年、変化がもたらされたからだと思います。

現代は、旧時代の生活をより合理的に、科学的に改

正月に思う

何百年來の私たちの生活慣習も、一つ一つ変化を余儀なくされて、それが今日の新しい「生活意識」として生れかわってくるのです。

小幡中
生徒の夢実現

なかな年の念願で、夢にまでみた野球のバックネットが、自分達の努力が実ってそこに完成したとき、彼等の小さな胸はおどった。!!今年こそは頑張るぞ!!

など、ネットなしでも良い成績が生まれて行った。だが、いつの大会でもいまい息のところで惜敗する試合が多く、ネットがあれば、と真剣に考える様になり、自分達の手で作ることにきまつた。

これは附立小幡中学校での
 明るい出来事。小幡中には、
 過去何回かバツクネットが出
 来る機会があったが、もう一
 歩のところできて実現され
 ないまま、昭和三十四年を迎
 えた。野球部は班の大会で準
 優勝し、郡大会でも健闘する

生徒会（二百四十二名）は
 冬休みを利用して、廃品回収
 に精を出し、空ビン、ボロ布
 鉄クズ、ワラなどがどつさり
 持ち込まれた。この生徒達の
 熱意に感激した小幡堀ノ内の
 田上善敏さん（野球クラブ、
 小幡ヤングース部長）は、建



写真は出来上ったバックネットと生徒

し、担任教師の努力と二、三の父兄の温い協力に加えて、小幡ヤンガースの奉仕があり建設は、急テンポで進み、一月十四日に完成、翌十五日には、生徒一同で野球大会をひらき、まあたらしいネットの使いそめをし、どの顔も喜びでいっぱいだった。

担任の根本先生は「これからは、今までのように、毎日ネットのとりはざしをやる必要もないので、練習時間が多くなり、能率があがります。生徒達の努力には、感謝の言葉はありません」とこれも明るい顔でした。

町立園部中学校では、町内全域に希望者の募集を呼びかけ、一月三日開会を期す。

町立園部中学校では、町内全域に希望者の参集を呼びかけ、一月三日剣道研修会を開催した。

年數十名、剣道振興会々員も加わり、水戸東武館長小沢生を はじめ、有段者数名とその門下の少年剣士による模範指導に次いで個人指導を行うこと一時間余、新春へき頭になさわしい鑑才、古に汗を流

これは、以前から中学校生徒に剣道を教えている飯塚園部中学校長の肝いりで催したもので、予期以上の成果をおさめた。

ので、「道義心豊かな、正統にして素直な青少年は武道を通じて育成する」と、この教えが中学生の教育の上に反映される日を期待したい。



十一年少年けるをう

○流通指導員
○農協営農指導員
とは



写真は模範指導

— 職 員 人 事 異 動 —

新任課職名
▽一月九日付
恋瀬支所 保険支所
五会支所兼林支所
▽一月十一日付
総務課 税務課
広報課 保険課
園部支所 出納室
税務課 農業委員會
土木委員會 教育委員會

職員人事異動

教育委員會	土木課	農業委員會	稅務課	出納室	國庫支所	保險課	廣報課	稅務課	總務課	▽十一月十一日付	互會支所兼林支所	保險課	戀瀬支所
小林利男	安達榮助	真家寬一	福島行雄	薙部幸枝	島田一夫	上田孝男	金子孝子	內田幸枝	內田幸枝		稲田瑞江	鈴木よし	千葉うら
(新採)	(新採)	(新採)	(新採)	(新採)	(新採)	(新採)	(新採)	(新採)	(新採)		(新採)	(新採)	(新採)

[illegible]

▽二月九日付

（兼互会支所）

五会支所兼林支所
樋田瑞江(保険課)

總務課
內田幸枝（広報課）

課税
業務
課
内
田
猛(厚)
生
課

保
險
課
上
田
一
男（總務課）

支那の税務

福島県教育委員会

土 廣
業 多
木 具
果 金
安 真
壘 家
柴 宜
坊 良
(新
部
三
采)

教育委員会 小林利男（「」）